

④ 保育内容「言葉」の指導法（2単位）

全体目標：

領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

（1）領域「言葉」のねらい及び内容

一般目標：

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。

到達目標：

- 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。

（2）領域「言葉」の指導方法及び保育の構想

一般目標：

幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：

- 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。
- 2) 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
- 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

〔留意事項〕

- 1) 教師の言葉掛けや援助については、映像資料や事例等を活用し、具体的な幼児の姿とともに理解できるようにする。
- 2) 言葉による伝え合いや文字の習得については、小学校との接続に向けて、幼児期と小学校以降の学びの違いを踏まえながら、幼児期にふさわしい指導の在り方を考えることができるようにする。

- 〔留意事項〕 3) 領域「言葉」の背景となる学問的基盤及び幼児教育に関わる専門性を有する人材が担当するにふさわしい。

考えられる〈授業モデル〉

- 1) 乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の発達の基盤には信頼関係の形成が不可欠であることや、言葉を獲得する前の非言語的なコミュニケーションの重要性について理解できるように、映像資料や事例等を活用して、分かりやすく講義する。
(1) - 1)、(1) - 2)
- 2) 幼児が、人の話を聞き、自分の経験したことや考えたことを話す中で、相互に伝え合う喜びを味わうようになる過程を具体的な事例を通して理解し、教師の援助の在り方を考える。
(1) - 2)
- 3) 言葉のすれ違いやうまく伝わらないもどかしさなどについて、映像資料や事例等の幼児の姿を通して具体的に理解し、幼児が互いの思いを伝え合うようになるための教師の援助の在り方について考える。
(1) - 2)
- 4) 幼児が遊びや生活の中で、文字の有用性や必要性に気付き、文字などを使おうとしている事例を基に、幼児が文字などで伝える楽しさを味わえるような教師の援助や環境の構成について、具体的に考える。
(1) - 2)
- 5) ごっこ遊びにおいて、幼児が言葉をやりとりしながら、友達とイメージを共有し合い、遊びを楽しみ、展開していくための環境の構成や教師の援助について、具体的な事例を基に理解した上で、幼児の発達を踏まえたごっこ遊びの指導について話し合う。
(1) - 1)、(1) - 2)、(2) - 1)
- 6) オノマトペや動きを誘発する言葉の具体例を挙げたり、しりとりやなぞなぞなどの言葉遊びを体験したりし、言葉に対する感覚を豊かにする活動について理解を深める。その上で、幼児が「言葉の楽しさや美しさ」に気付くような遊びについて、指導案を作成する。
(1) - 2)、(2) - 3)
- 7) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中で、領域「言葉」と関係の深い「言葉による伝え合い」がどのような姿であるのか、映像資料や事例を通して理解し、こうした姿が小学校での学習にどのようなつながるのか、グループで話し合うなどして具体的に考える。
(1) - 2)、(1) - 3)、(1) - 4)
- 8) 言葉に遅れがある幼児や障害がある幼児、外国籍の幼児等への援助について、現在、保育現場において、どのような言葉における配慮が必要とされているのか、現状を調べるなどして把握した上で、事例を通して、具体的な場面における教師の援助の在り方を考える。
(1) - 2)、(2) - 5)
- 9) 絵本や物語、紙芝居などの児童文化財の幼児にとっての意義について、読んだり聞いたりする体験を通して理解し、保育の中にどのように取り入れるか考える。幼児の年齢や時期を考えて保育を構想し、模擬保育を実施し振り返りを行う。
(2) - 2)、(2) - 3)、(2) - 4)

- 10) 異文化への興味を深めるために、外国語の挨拶や動物の鳴き声の表現などに触れ、幼児にとっての多文化理解を考える機会を設ける。

(2) - 5)

*上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。

⑤ 保育内容「表現」の指導法（2単位）

全体目標：

領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

（1）領域「表現」のねらい及び内容

一般目標：

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。

到達目標：

- 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。

（2）領域「表現」の指導方法及び保育の構想

一般目標：

幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を修得す身に付ける。

到達目標：

- 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。
- 2) 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
- 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

〔留意事項〕

- 1) ドキュメンテーションやポートフォリオ等、ICTを活用した指導計画や学修記録、幼児にわかりやすい教材や提示資料（アイデアや活動の記録）等の資料作成を行う機会を設ける。
- 2) 表現の発達や身体の発達を踏まえ、小学校の教科と関連づけて指導法について説明する。

- [留意事項] 3) 領域「表現」の背景となる学問的基盤及び幼児教育に関わる専門性を有する人材が担当するにふさわしい。

考えられる<授業モデル>

- 1) 幼児の音楽・造形・身体表現について、映像を用いながら、その表現における幼児の思いや気付き、心の動きなどを読み取り、領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質能力との関連について説明する。
(1) - 1)、(1) - 2)、(1) - 3)
- 2) 「幼児期の終わりにまでに育って欲しい幼児の具体的な姿」について、領域「表現」と「豊かな感性と表現」の関連だけでなく、幼児の表現活動の中での「協同性」や「言葉による伝え合い」の育ち、「思考力の芽生え」等、他領域との関連も含めて具体的に説明する。
(1) - 1)、(1) - 2)、(1) - 3)、(1) - 4)
- 3) 幼児期の表現の学びには、小学校の音楽科・図画工作科だけでなく、国語・算数・生活・体育など多教科にわたる教科内容につながりがあることを、具体例を示して説明する。
(1) - 4)
- 4) 乳幼児の日常生活から表現の育ちについて観察したり、幼児の素朴な表現からそこに込められた思いを汲み取ったり、表現に至るプロセスを想像したりする。また、幼児が美しいものに心を動かしている姿に気付き、幼児自身のイメージをより豊かにする環境の構成や言葉掛けについて考える。
(1) - 2)、(2) - 1)、(2) - 2)、(2) - 3)
- 5) 幼児期の表現活動は、発表会や展覧会に向けて何かを教え込むものではない。幼児の表現したい気持ちを大切に、さらに意欲的に表現活動に取り組める工夫として、幼児の表現がより豊かになったり深まったりするような環境の構成や言葉掛けについて考える。
(1) - 1)、(1) - 2)、(1) - 3)、(2) - 1)、(2) - 3)
- 6) 幼児の興味や関心をもつような魅力ある環境を理解し、感性的な出会いの豊かな環境や、思いや意図をもって表現することを楽しめる環境の構成を考える。
(2) - 1)、(2) - 2)、(2) - 3)
- 7) 年齢や発達に応じ、幼児の素朴な表現を生かした保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育と振り返りを行う。
(2) - 3)、(2) - 4)
- 8) 幼児の協同的かつ創造的な表現を育むための、様々な素材を活用した表現活動に関する国内外の取組を紹介し、幼児の表現活動について様々な視点から考える機会をもつ。
(2) - 5)

* 上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。

⑥ 保育内容総論（1単位）

全体目標：

幼稚園教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連づけながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。

（1）幼稚園教育の基本に基づく指導の考え方の理解

一般目標：

幼稚園教育の基本を踏まえた幼稚園における指導の考え方を理解している。

- 到達目標：
- 1) 幼児期の教育における見方・考え方について、具体的な事例を挙げて説明できる。
 - 2) 遊びを通しての総合的な指導の意義と教師の役割が説明できる。
 - 3) 幼稚園教育における幼児理解に基づく評価について説明できる。
 - 4) 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続についての説明できる。

（2）発達を見通した指導計画作成の理解

一般目標：

幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。

- 到達目標：
- 1) 幼稚園教育における指導計画の考え方について説明できる。
 - 2) 長期の指導計画と短期の指導計画との関係について説明できる。
 - 3) 具体的な幼児の姿から指導計画を作成する手順と配慮点について説明できる。
 - 4) 指導計画の評価の考え方について説明できる。
 - 5) 幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事の在り方を説明できる。

（3）幼稚園における具体的な指導の理解

一般目標：

幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。

- 到達目標：
- 1) 幼児の実態に沿って、物や人との関わりを深める視点から教材を工夫する力を付ける。
 - 2) 保育記録を書くことを通して、幼児を理解する力を付ける。
 - 3) 模擬保育を通して、ねらい及び内容に沿って総合的に指導する力を付ける。

〔留意事項〕

- 1) 幼稚園の指導が分かる保育ビデオや写真などの視聴覚教材を活用し、できるだけ実際の姿をイメージしながら、授業に臨めるようにする。

- [留意事項]
- 2) 幼稚園 5 歳児の保育と小学校におけるスタートカリキュラムをつなげながら、発達や学びの連続性を踏まえた円滑な接続について分かりやすく講義していく。
 - 3) 幼児教育に関わる学問的な基盤をもち、保育を構想できる人材が担当するにふさわしい。

考えられる<授業モデル>

- 1) 実際に幼児の遊びの姿を観察しながら、遊びの中でどのような経験をしているかを分析し、5 領域のねらい及び内容とのつながりを確認して、遊びを通しての総合的な指導での教師の援助について話し合う。
(1) - 3)
- 2) 「初めてのお弁当の日どのような指導をするか」等、具体的なテーマをもって指導案を作成し模擬保育を試みる。終了後、グループの他の学生と意見交換しながら、自分自身の保育を振り返り実践力を付けていく。
(2) - 3)
- 3) 実際に幼児の姿を観察して、保育記録をとり、グループの中で保育記録を交換し、学生自身が自分自身の幼児の見方や受け止め方についての傾向を知り、幼児理解を深めることへの意欲をもたせていく。
(3) - 2)

* 上記授業モデルに付記した番号は、特に関連の深い到達目標の番号であり、番号としては示していないが、他に関連する項目もあるので、事例の着眼点や授業展開の仕方によって異なってくることに留意。